

## 大きな国際会議での 英語アブストラクト執筆のコツ

ICP2016および日本心理学会第80回大会の発表申込では2015年12月1日までに要旨を英語で記入しなくてはなりません(150ワード)。大きな国際会議では分野が非常に異なる研究者も多数参加します。多くの参加者に興味を持つて読んでもらえる分かりやすい英語アブストラクト執筆のコツをお教えします。

以下は一般論です。アブストラクトは研究の背景・目的・方法・結果・考察（結論）の5要素からなります。最初の背景は通例現在完了形または現在形で書きますが、短いアブストラクトでは省略できます（例：Although previous research has shown that…, little is known about…）。目的は現在形で書きますが（例：The purpose of this paper is to investigate…），目的としてこの論文で用いた具体的な研究方法等に言及する場合は過去形で書く場合もあり

## html メールと Twitter による広報活動

既にご案内の通り、ICP2016では、ホームページ(<http://www.icp2016.jp/>) やポスター、Facebook(<https://www.facebook.com/ICP2016>) による広報活動を行っています。また、今年4月中旬からはTwitter (<https://twitter.com/icp2016tw>) を開始し、さらに4月の下旬にはhtml形式のメールによるニュースレターの配信も行いました。Twitterでの情報配信は、現在のところまだ頻繁に行っているわけではありませんが、発表申込締切が近づいたり会期が近づいたりするなどにつれてより多くの情報が配信されるものと思います。またニュースレターをhtml形式のメールでお送りした効果もあって、5月初旬でのICP2016のホームページのアクセス数（同時に事務局への質問も）が急増したと聞いております。

ところで、最近、htmlメールでの情報配信は急増しています。ショッピングサイトからのものはおなじみかと思いますが、国際学会の広報や論文誌の目次配信や投稿募集案内にもhtmlメールが頻繁に使われるようになりました。特に最近ではモバイル端末でメールを見る機会も

ます（例：Here, we examined whether…）。方  
法は一般に過去形で書きます（例：The stimuli  
consisted of… Participants were asked to…）。  
この研究での結果や知見は過去形で書きます  
が（例：The results demonstrated that mean  
reaction times were longer in the condition  
…），結果から導かれる一般性・普遍性のある  
考察（結論）は現在形で書きます（例：These  
findings indicate that… We conclude that…）。

極力簡潔かつ具体的に書くことが大切です。In this studyなどのわかりきった言葉は省略しましょう。長い主語は避けて、できるだけ受動態ではなく能動態で書くほうが望ましいです。また、日本人は文頭で however, moreover, furthermore, thereforeなどの副詞を多用しすぎる傾向がありますので、必要最小限に留めましょう。on the other hand, thus, then, also, specifically, in addition, so, namelyなどの副詞（句）はアブストラクトでは冗長になりますので使用しないほうがよいです。

(ICP2016広報委員 森川和則)

増えたこともあり、素っ気ない印象のテキスト形式のメールよりも、画像やボタンを配列できる見栄えの良いhtmlメールが情報配信として人気があるようです。また、htmlメールの配信では開封率やクリック率なども分かるため、今後の広報活動やマーケティングではますます増えていくものと思われます。ただし、htmlメールを利用する場合、デザインの良くないメールの多くは削除されてしまうというデータもあります。ICP2016のニュースレターも、国内外の皆様に見て頂けるよう努力していきますので、今後の配信をお楽しみにお待ちください。

(ICP2016広報委員 川畠秀明)

